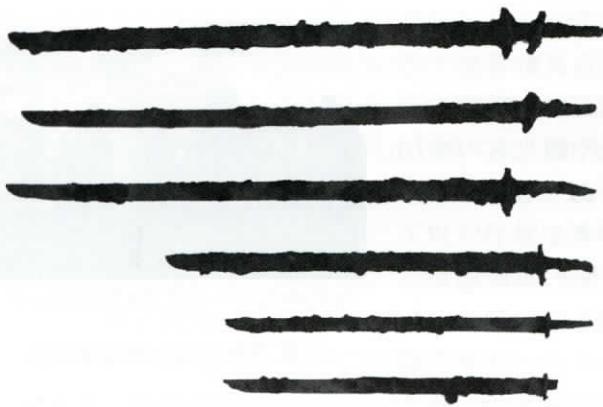


八ヶ岳通信

■文化財係

新発見！『永明寺山古墳』



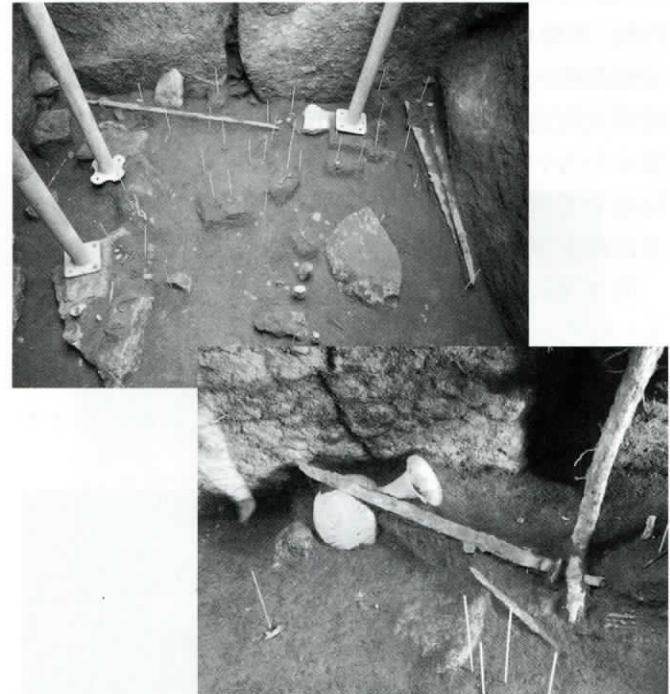
【出土した直刀 6振り】

○新発見の古墳！

永明寺山古墳は、茅野市役所から北へおよそ1kmの永明寺山中腹の南側斜面にあります。一帯は多くの古墳があり、永明寺山麓古墳群と呼ばれる古墳群を形成しています。この永明寺山古墳も、そこに含まれる古墳です。

この古墳は市の墓地造成に伴い見つかった新発見の古墳です。調査の結果、この古墳は7世紀頃（古墳時代後期）、今から約1400年前の円墳であることがわかりました。直径約11mの土留めの役割をする外護列石が、きれいな円形に廻っています。埋葬される部屋である玄室も、一部天井石の欠落がありましたが、ほぼ完全な状態でした。構造は横穴式石室で、玄室は幅約2.2m、奥行約5m、最も高い場所で2mを測ります。

この古墳は羨道と呼ばれる玄室と外とをつなぐ通路が、やや東に曲がっているという特徴を持ち、その方向には富士山を望むことができます。古墳時代の人々も眺めていたのかも知れません。



【直刀出土状態】

○多くの遺物が出土！

玄室の中からは、直刀、刀子（小刀）、鉄鎌（矢じり）、馬具、装飾品の玉類や青銅製の金環、須恵器や土師器の土器など、数多くの遺物が出土しました。特筆すべきは直刀6振りで、全てが壁際に整然と並べられたかのように置かれていました。

玄室内全体から遺物が出土し、平安時代と思われる土器も発見されました。これらのことから、時間が空きながらも追葬が行われていた可能性が考えられます。

直刀をX線分析にかけたところ、2振りは鍔部分から象嵌という装飾のための特殊な刻み加工があることがわかりました。象嵌は非常に高い技術を要することから、被葬者の位の高さを伺うことができます。遺物の遺存状態の良さと量の多さは市内の古墳としては珍しく、貴重な資料となります。

茅野市ミュージアム活性化事業

茅野市内のミュージアムは、その文化資源を活用しながらそれぞれに活発な運営をしていますが、個別の活動となってしまっています。このことから、ミュージアムの連携強化により、文化資源を効果的に活用し、地域の観光振興および地域の活性化に資することを目的とする、茅野市ミュージアム活性化推進委員会が組織されました。平成24年度からはじまり2年目となる本年度も、設置者が異なる様々な分野の6館(茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市美術館、京都造形芸術大学附属康耀堂美術館、蓼科高原美術館・矢崎虎夫記念館)による茅野市ミュージアム活性化事業を行ない、茅野市の玄関口とも言えるJR茅野駅に隣接する文化複合施設・茅野市民館内にある茅野市美術館を事業展開の拠点としました。

同事業による連携事業として、①ちのミュージアム・スタンプラリー(7月27日～11月30日、6館中4館のスタンプを集めると特製クリアファイルをプレゼント)、②パネル展示(7月31日～9月23日、各館のおすすめの一点を大きなスクリーンにプリントし、さらに6館の紹介パネル、スタンプラリーのパネルなどを展示)、③ワークショップ&講座が大集合！(8～9月、全6回、各館が担当)、④ちのミュージアム・ピクニック(10月、全4回、3回は各館をバスで巡り、1回は講座)、⑤シンポジウム「まち・産業・ミュージアム」(11月17日)を行ないました。⑤は基調講演に風張知子氏(八戸ポータルミュージアム「はっち」館長)を、パネリストに西山勝廣氏(諏訪東京理科大学科学技術交流センター長)、宮坂貞博氏(茅野商工会議所 茅野TMO事務長)、鵜飼幸雄氏(茅野市尖石縄文考古館館長)、辻野隆之(茅野市美術館長)を、コー



①ちのミュージアム・スタンプラリー



②パネル展示

ディネーターに徳永高志(茅野市民館コアアドバイザー)を迎えました。

①ちのミュージアム・スタンプラリーは本年度から開始した事業です。ミュージアムに馴染みの薄かったであろう子どもから高齢者までの幅広い年齢層の市民や観光客の参加がありました。②パネル展示はJR茅野駅の東西通路に面しているイベントスペースを会場としました。多くの市民や観光客に對し情報発信を行なうことができました。③ワークショップ&講座が大集合！は各館の企画によるもので、各館について知り、体験できる事

業とし、新規利用者層創出を目的とし、幅広い年齢層の参加がありました。④ちのミュージアム・ピクニックは本年度から開始した事業です。茅野市内のミュージアムを知る入門的な機会となりました。⑤シンポジウムは本年度の連携事業の総括的な位置付けで開催しました。どの街にも文化資源はあり、その価値を発見することと、努力して伝えようと努めることが必要性や、市民が「トライ＆エラー」できる場として、「様々なことを発見し、早急に価値を決めてしまわない」というミュージアムの役割を、確認しました。

今後も各館での個別の活動にとどまらず、「市民」がミュージアムと共に多様な文化資源を活かしながら、様々な事柄を内外に発信できるような環境を目指していければと思います。

③ワークショップ&講座が大集合！
vol.6 茅野市美術館
「もうひとりの自分をつくろう」④ちのミュージアム・ピクニック
その3
会場:茅野市尖石縄文考古館⑤シンポジウム
「まち・産業・ミュージアム」

市民研究員養成講座

博物館の活動に市民が関わり、そのことによって博物館が高められる。また、市民には博物館活動に関わることにやりがいを感じていただく。そのような市民とのつながりをもった博物館を目指して2013年4月に市民研究員養成講座を発足させました。言うまでもありませんが博物館の活動には3本の柱があります。調査研究活動、資料の収集保管活動、そして教育普及活動です。その活動に有機的に市民に関わっていただくのが博物館と、そこに関わる市民の望ましいあり方です。このような市民を指導し養成するのは本来学芸員の仕事ですが、茅野市八ヶ岳総合博物館は学芸員が極端に不足しているのでやり切れません。そこで指導は外部の専門家にお願いすることにしました。最初から多くの分野を走らせるのは大変なので、とりあえず5分野について専門の指導者をお願いしました。5分野とは植物、陸水、野鳥、きのこ、実験工作です。実験工作については、科学教育振興についても総合博物館で扱うようにという意向に基づいて設けたものです。植物の指導者は植物研究家名取陽先生、陸水は信州大学教授花里孝幸先生、野鳥は日本野鳥の会諏訪支部両角英晴先生、きのこは日本菌類懇話会事務局長小山明人先生、実験工作は諏訪東京理科大学教授木村正弘先生です。参加されている市民の皆さんには分野別にグループに分かれ、これらの先生に毎月1～数回指導を受けながら実践的な学習を深めています。実践的というのは座学だけではなく、実際に野山を歩いたり、実際にいろいろな実験工作を体験していただいているからです。現在植物グループには19名、陸水グループには5名、野鳥グループには7名、きのこグループには12名、実験工作グループには6名の方が登録され活動しています。まだ1年経過していませんが、参加されている市民の方たちは、素晴らしい力をつけてきているのが判ります。力をついた方は年度末に「市民研究員」の認定証をお渡しすることにしています。この養成講座は3年間継続しますので、今年度認定されなくても来年度には認定されます。また、3年間5つのグループは継続しますので、途中からの参加も歓迎しています。途中からの参加でも市民研究員の認定はされます。興味のある方は有意義な学習が出来ますので、是非参加していただきたいと思います。

市民研究員に認定されると、今後の養成講座への積極的な参加はもちろんのこと、調査研究のお手伝い、資料収集のお手伝い、また、自然観察会等の

講師や、地域の学校への出前授業などで活躍していただくようなことも起こってくるのではないかと期待しています。

とりあえず一期3年間、5分野で発足していますが、茅野市八ヶ岳総合博物館は自然分野だけではなく、歴史民俗、文芸も扱う博物館です。また、自然分野についても、地質、動物、羊歯植物、蘚苔類、昆虫、天文、気象等もあります。今後については自然分野の拡張もさることながら、歴史民俗、文芸分野の養成講座創設についても、この一期3年の成果を踏まえて行い、市民の皆様の活躍によって、各種分野の活発な博物館活動を行う総合博物館として高めていきたいと考えています。



陸水グループ 水田のミジンコ調査学習の様子



野鳥グループ 野鳥観察学習の様子



実験工作グループ 子どもたちに針穴写真機製作の指導

■尖石縄文考古館

尖石縄文考古館特別展『中ッ原遺跡が語る八ヶ岳山麓縄文文化の変化（へんげ）』

平成25年度の尖石縄文考古館特別展は、「仮面の女神」で知られる中ッ原遺跡を取り上げ、7月13日（土）から11月24日（日）の会期で開催しました。

八ヶ岳山麓では、縄文時代中期に土器造形の発達や遺跡数の増加が顕著となり、文化的な頂点に達します。それが後期になると、遺跡数は激減してしまいます。従来、これについては自然環境の寒冷化が大きく影響したとされていますが、その変化について、八ヶ岳山麓から霧ヶ峰南麓の縄文時代遺跡のなかでも、中期～後期のあいだ周囲の遺跡に比べて大きな規模を保ち続けた中ッ原遺跡の資料を展示することで見てみましょう、というのが目的です。

展示資料は各種土器を中心に、石器、ヒスイやコハクなどの装飾品、炭化したクリ、そして土偶の合計約200点で、中ッ原遺跡出土資料はこれまでほとんど公開してこなかったものです。

会期中の7月28日（土）と10月26日（土）には、

展示解説を含むギャラリートークを開催しました。



ギャラリートークのようす

■神長官守矢史料館

企画展「守矢真幸と岩波茂雄」

平成25年8月10日（土）から10月14日（月）まで企画展「守矢真幸と岩波茂雄」を開催しました。神長官守矢家の当主だった守矢真幸と岩波書店を創業した岩波茂雄は、諏訪実科中学校・諏訪実科高等学校（現 諏訪清陵高等学校）の先輩・後輩であり、古くから親交がありました。

守矢真幸は、諏訪実科中学校後、先に上京していた岩波の誘いで、日本中学校（現 日本学園高校）に入学しています。守矢真幸の日記には、青春時代の岩波のことが書かれています。

今回の企画展では、岩波書店から書簡をお借りしました。書簡は、守矢から岩波におくられたものです。内容は、いずれも同じで、山岳画家である武井真澄（真澂 1875-1957）の生活が困窮しているので、岩波へ金銭の援助と、武井を世に出してくれるよう依頼しているものです。

守矢は、諏訪大社の神官になる前は、長野県内で教員を勤めていました。この時に、同じ教員だった武井真澄と親交があつたようです。

守矢と岩波は、大人になっても変わらない友情で結ばれていたことがわかる史料を展示しました。



茅野市神長官守矢史料館
〒391-0013 長野県茅野市宮川 389-1
TEL・FAX 0266-73-7567

茅野市の博物館・文化財だより 八ヶ岳通信 №32 発行年月日 平成26年3月31日

編集・発行	茅野市教育委員会文化財課文化財係	〒391-0213 長野県茅野市豊平 6983 番地 TEL(0266) 76-2386
茅野市美術館	茅野市八ヶ岳総合博物館	〒391-0002 長野県茅野市塚原1丁目1番1号 TEL(0266) 82-8222
茅野市尖石縄文考古館	茅野市尖石縄文考古館	〒391-0213 長野県茅野市豊平 6983 番地 TEL(0266) 73-0300
茅野市神長官守矢史料館	茅野市神長官守矢史料館	〒391-0013 長野県茅野市豊平 6983 番地 TEL(0266) 73-0300
		〒391-0213 長野県茅野市宮川 389 番地の1 TEL(0266) 73-7567